

氏名	レティツィア・グアリーニ（准教授）
こんな研究をしています	日本現代文学における家族、とりわけ父親像や父娘関係を研究しています。また、文学における妊娠・出産・育児、女同士の友愛関係、フェミニズム運動と文学の関係など、さまざまなテーマに焦点を当てながらジェンダーの視点から文学を研究しています。日本語文学における母語やアイデンティの問題についても研究しています。
こんな成果を挙げています	<p>1. “Trans Bodies, Gender Fluidity and Fatherhood in Contemporary Japanese Literature,” <i>Gender Fluidity in Japanese Arts and Culture</i>, McFarland, forthcoming.</p> <p>2. “Dismantling the Family Ideology in Contemporary Japanese Literature: Hatred, Disgust and Reconciliation in Three Father-Daughter Stories by Kakuta Mitsuyo,” <i>The Asian Family in Literature and Film: Challenges and Contestations-South Asia, Southeast Asia and Asian Diaspora, Volume II</i>, Palgrave Macmillan, forthcoming.</p> <p>3. “Voices Against Gender-based Violence in Contemporary Japanese Literature: An Analysis of Two Novels by Kaoruko Himeno and Aoko Matsuda,” <i>Voiced and Voiceless in Asia</i>, Palacký University Olomouc, 2023, pp. 456-486.</p> <p>4. “Parody and Subversion in Kurahashi Yumiko’s Divine Maiden,” <i>Japanese Studies</i> vol. 42 no. 3, 2022, pp. 339-353.</p> <p>5. 「娘は父の支配から逃れられるのか?—角田光代の『ゆうべの神様』と『父のボール』に見る父娘関係」『ジェンダー研究』第23号、2021年、55-79頁。</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	文学はもちろん、映画、漫画、アニメ、ドラマ、CM など、幅広くメディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析することに関心があります。また、日本、そして世界各国における家族の形の多様化や性役割に関する社会的規範への違和感を語る声にも興味を持って研究しています。
こんな授業を行なっています	<p>「多文化相関論 IA・B」</p> <p>ジェンダー理論やクィア理論の視点から文化について考察しながら、文学作品、映像作品、SNS などにおける身体の表象を分析する授業を行います。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	ジェンダー・セクシュアリティ研究についてのイベントを企画・運営しています。今までジェンダーと写真に関するイベント、翻訳に関するイベント、また映画上映会などを開催してきました。また、イタリア語で日本の文芸作品を紹介して、翻訳しています。